

## 国内学会参加報告書

人間文化研究科 情報科学専攻

博士前期課程 1 回生 川岸諒子



2007年10月14日(日)から16日(火)まで北海道大学で開催された「気象学会2007年度秋季大会」に参加しました。気象学会では気候システム、熱帯大気、降水システム、気象予報のように気象に直結したセッションだけでなく、エアロゾル、微量気体などのように環境問題や地球温暖化の要因に関連するセッションもあります。私は微量気体セッションにて口頭発表とポスター発表を行いました。口頭発表の題目は「オゾンゾンデ観測から得られた対流圏オゾンの解析—空気塊分類に基づく解析結果—」、ポスター発表は「流跡線解析ツール SPIRAL の開発と対流圏

オゾン解析への応用」です。

対流圏オゾンは大気中のオゾン全量の10%程度に過ぎませんが、広域的な大気汚染問題を引き起こし人体や農作物に影響を与えるだけでなく、地球規模での温室効果をもたらします。今年春に九州をはじめ日本各地で例年より早く光化学スモッグ注意報が発令され、社会的関心を呼びましたが、光化学スモッグの原因も対流圏オゾンです。そのため、対流圏オゾンの季節変化や長期変動の支配要因を明らかにすることが求められています。発表では、東アジア域に着目し、オゾンゾンデデータ観測から得られた対流圏オゾンの季節変化や長期変動の解析結果と、今春の光化学スモッグエピソードの事例解析結果について発表しました。またポスターでは、我々が独自に開発した流跡線解析ツール SPIRAL について発表し、対流圏オゾン解析への応用例を示しました。流跡線解析とは、大気微量成分の分布や起源、輸送を明らかにする有効な手法です。

発表では多くの方が興味を持って聞いてくださり、たくさんの意見をいただくことができ、とても有意義な時間でした。学生だけでなく研究所の先生も話を聞いて下さり、貴重なアドバイスをいただきました。また、ポスター発表では、私よりも専門的な分野である物理系の他大学の学生の方々に、流跡線解析について詳細に尋ねられました。議論が白熱する場面もありましたが、勉強になったと思います。皆さんからいただいた意

見やアドバイスを今後の研究に生かし、更に発展させていきたいと思いました。

ポスターセッションでは他大学の学生のポスターを拝見し、研究内容について疑問に感じたことを質問することで、色々な考え方に触れることができました。私と同じ対流圏オゾンの長期変動の解析を行っている院生の方の発表では、解析方法についてなどの意見交換を行うことができ今後の参考になりました。また、学会期間中にはいくつかの研究会も行われており、私は「オゾン研究連絡会」に参加しました。研究会ではFRCGCの秋元肇先生の「対流圏オゾンの半球汚染とアジア汚染」、環境研の大原利真先生の「光化学オゾンの最近の特徴—今春の高濃度エピソードを中心として—」という講演を聞きました。今回の研究会のテーマが「2007年春の光化学スモッグ」ということもあり、自分の研究にも直結する講演内容だったのでとても参考になりました。日本での最前線の研究成果を聞くことができ、研究意欲が湧いてきました。

今回が初めての学会発表ということもありとても大変でしたが、発表に向け準備をしていく中で研究の問題点や今後の課題などを明確にすることができました。発表では、自分のパソコンがプロジェクターに認識されないトラブルが発生したことや、質問に上手く答えられなかったことなど反省点も多々ありますが、いい経験になったと思います。今回の発表を通して明確になった問題点に真剣に取り組み、次回の学会でも発表が出来るよう日々研究に励みたいと思います。

この度は、国内学会参加のために魅力ある大学院教育イニシアティブ先端科学の芽を産み出す女性研究者育成プログラムより支援していただき、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

